

研究課題名	脳卒中の疫学・予後因子に関する研究
研究の意義・目的	<p>研究の意義：脳卒中は発症予防、つまりリスク管理が重要です。現在予防医療の発達により脳卒中の罹患率は減少傾向にあります。今回の研究では、急性期脳梗塞の何が最もリスクがあるのか、また機械的血栓回収療法の予後関連因子について調べます。機械的血栓回収療法は主幹動脈が閉塞した際にカテーテルで詰まった血栓を回収する治療法です。すでに知られているリスク因子以外にも新たなリスク因子の発見により、脳卒中発症リスクの減少に寄与する可能性があります。また脳卒中を発症しても急性期治療のますますの発展に伴い、患者様の予後改善に寄与する可能性があります。</p> <p>研究の目的：急性期脳梗塞を対象に、治療状況を調査し、最適な治療法や予後因子について新たな知見を見出します。</p>
研究を行う期間	研究機関：研究機関の長の研究実施許可日～2029 年 3 月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	<p>以下の選択基準を全て満たし、除外基準のいずれにも合致しない者を本研究の研究対象者とします。</p> <p>選択基準</p> <ol style="list-style-type: none">大阪公立大学医学部附属病院での外来・入院の急性期脳梗塞と診断された患者様 (2022/4/1～2024/9/30に診断された方)年齢が 18 歳以上
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせて いただく試料・情報 等の項目	<p>本研究では以下の情報を取得します。</p> <p>以下の項目は日常診療で取得する情報です。</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 患者基本情報：年齢、性別、BMI、血液型、既往歴（高血圧、脂質異常症、糖尿病）、喫煙歴、飲酒歴、診断名、抗血栓薬内服の有無<input type="checkbox"/> 神経学的所見：NIHSS (National Institutes of Health Stroke Scale⇒脳卒中患者の神経障害の程度を表すスコア)<input type="checkbox"/> 血液検査：血小板数、ヘモグロビン、BUN、血清クレアチニン、eGFR、LDL、中性脂肪、総ホモシステイン、D ダイマー、BNP、HbA1c<input type="checkbox"/> 病理検査：機械的血栓回収療法 (MT:mechanical thrombectomy) にて回収された血栓病理検査結果<input type="checkbox"/> 画像検査：頭部 MRI 検査 (DWI-ASPECTS:diffusion weighted image-Alberta Stroke Program Early CT score⇒脳虚血の範囲を MRI で定量化するスコア)<input type="checkbox"/> 予後調査：静注血栓溶解療法 (rt-PA:recombinant tissue-type plasminogen activator) 施行の有無、Door から投与までの時間、初診時・退院時・発症 3 か月後の mRS (modified Rankin Scale⇒脳卒中後の患者の機能的自立度)、MT を施行した症例では『発症 (O:onset) もしくは最終健常確認』、『搬送時刻 (D:Door)』、『頭部 CT 撮像開始時刻』、『頭部 MRI 撮像開始時刻』、『血管撮影室入室時刻』、『穿刺時刻 (P:Puncture)』、『1st pass 時刻』、『再開通時刻 (R:Recanalization)』、『再開通までに要した pass 回数と最終 TICI (thrombolysis in cerebral infarction⇒脳血管の開通度)』、『血栓を回収した方法』、『術後頭部 CT における脳内出血・くも膜下出血の有無を評価』

試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科脳神経内科学のみで行います。 【研究責任者】岡本 光佑
本研究の 利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 脳神経内科 担当者氏名：岡本 光佑 電話番号：06-6645-3889